

サーヴァント

×  
コレクト

獣国の皇女編

by elfen

R-18



それは、泡沫うたかたのようだった

人類が生き抜くには、  
あまりにも過酷こくに過ぎたあの異聞帯いぶんたいに  
僕は勝利をもたらせなかった……

ただ

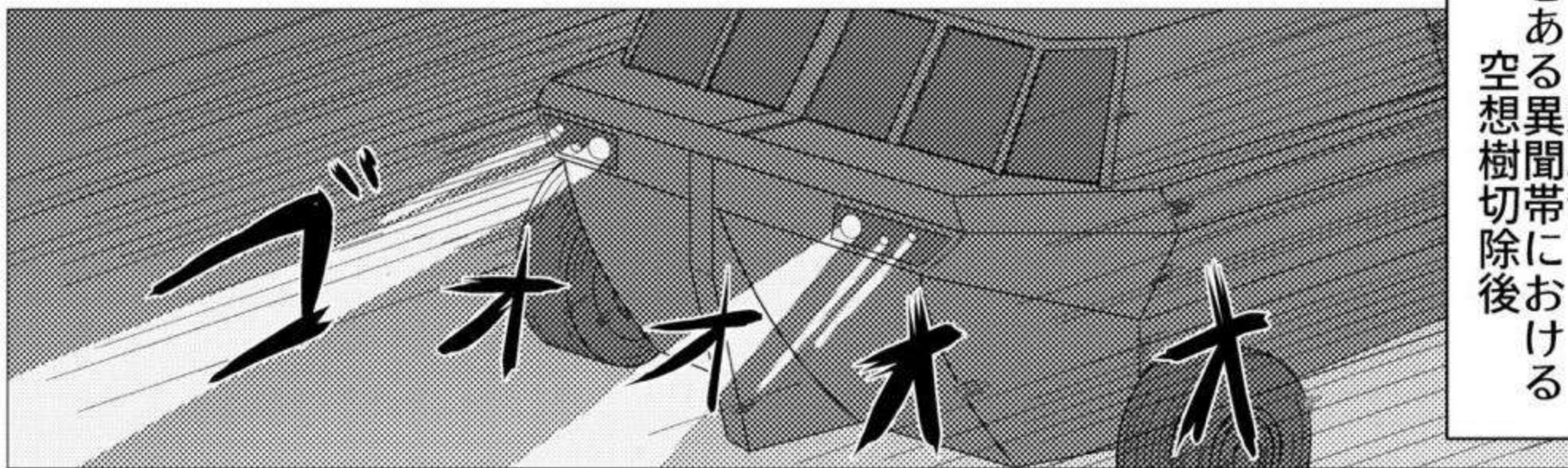
それでも

あのどうしようもない  
極寒の大地でただ一つ、

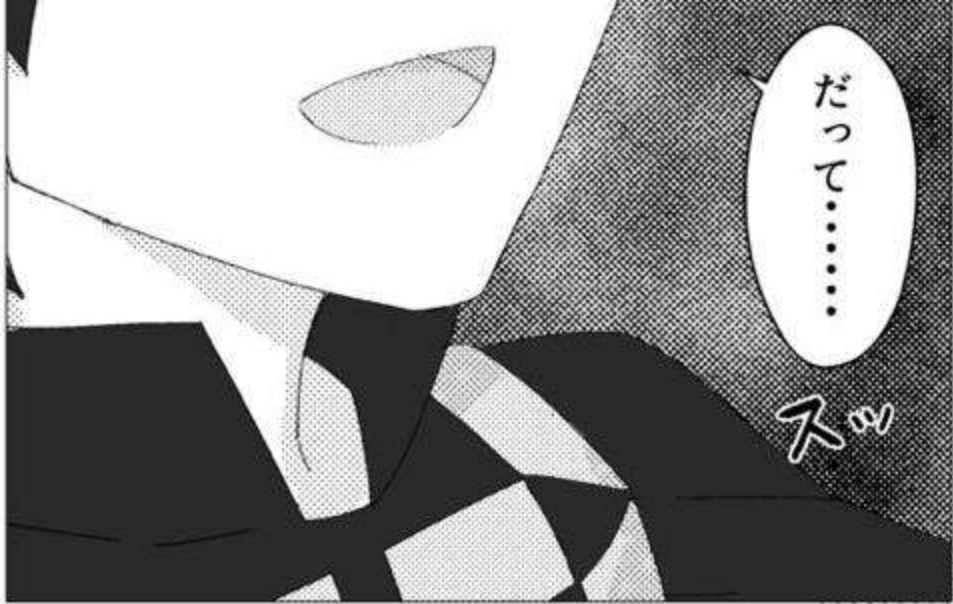
どうしようもないほどに温かなものを  
ひとつ僕は彼女にもらった



とある異聞帯における  
空想樹切除後











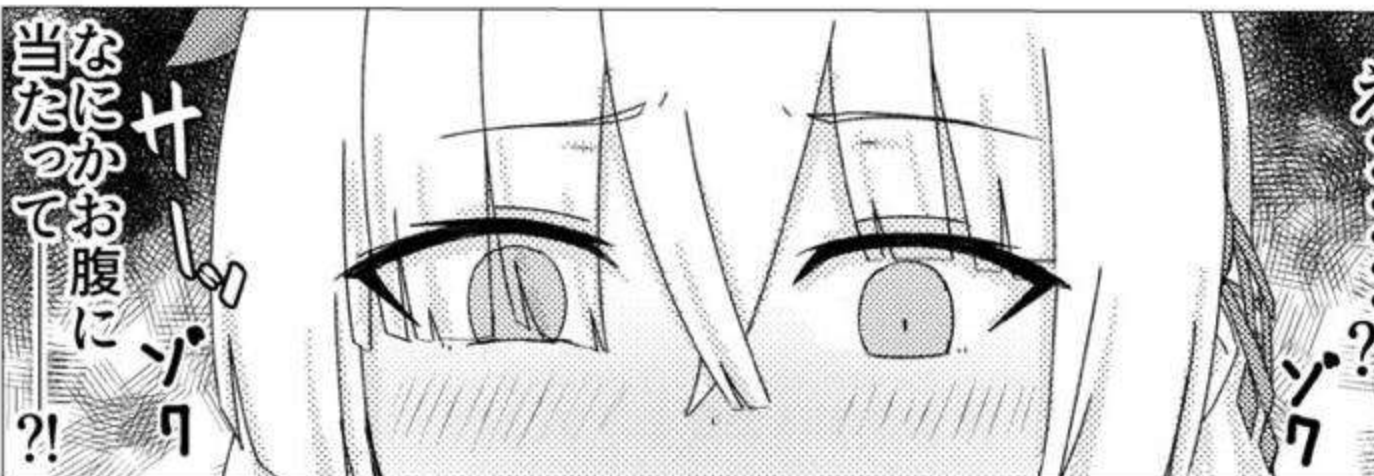
……へえ……  
まあいいさ  
すぐに理解すること  
だろうし？



私を侮辱するのですか!!



……令呪かなにかですか?  
しかし、  
カルデアの令呪は



そ!仕掛け!  
といっても、そう大層なもの  
じゃあないんだけど



……仕掛け……ですか……



実は、うちで召喚されると、  
そのサーヴァントに対して、  
とある仕掛けが施されるように  
なってるんだ



生来持ちうる、動物としての本能にほんの少し、そう、ほんの少しだけ抗い難くなるってだけ

つまり、抵抗力がなくなるんだ

だからまあ、それほど理不尽な話じゃあないよね？

だって、君はそれこそ、力だけで言えば、オレより、強者だ

すぐにだって殺せるだろう？ 召喚されてすぐだから、情だってないだろうし

でも、君はそれができない だって

なぜなら、君はもう誰が強者なのか理解してるもんね？

汚らわしいはずなのに…… なにか、おかしい

!!  
そうよ、手遅れになる前に凍らせてそれからたたき割ってしまえば

ブオオオ

ほら、段々誇りとか、どうでもよくなってきたんじゃない？

オレのこれ、結構評判なんだよ？ 口ではなんと言ってたとしても、みんなコロっと墮ちるし

ま、オレには魔術の才能はないらしいけど、唯一の取り柄っていうのかな？

だ、ダメ!!  
それ以上、その存在を私に突きつけないで理解してしまう

ま、どんな選択をするのか、それは君の自由だよ

それこそ、絶対命令権を行使したわけでもないし……





……決して認めたくはない

けれど、本能に否応なく  
理解させられる

この男が言った『仕掛け』、  
その意味を

ああ……なぜ……!?  
——跪いてしまう——!

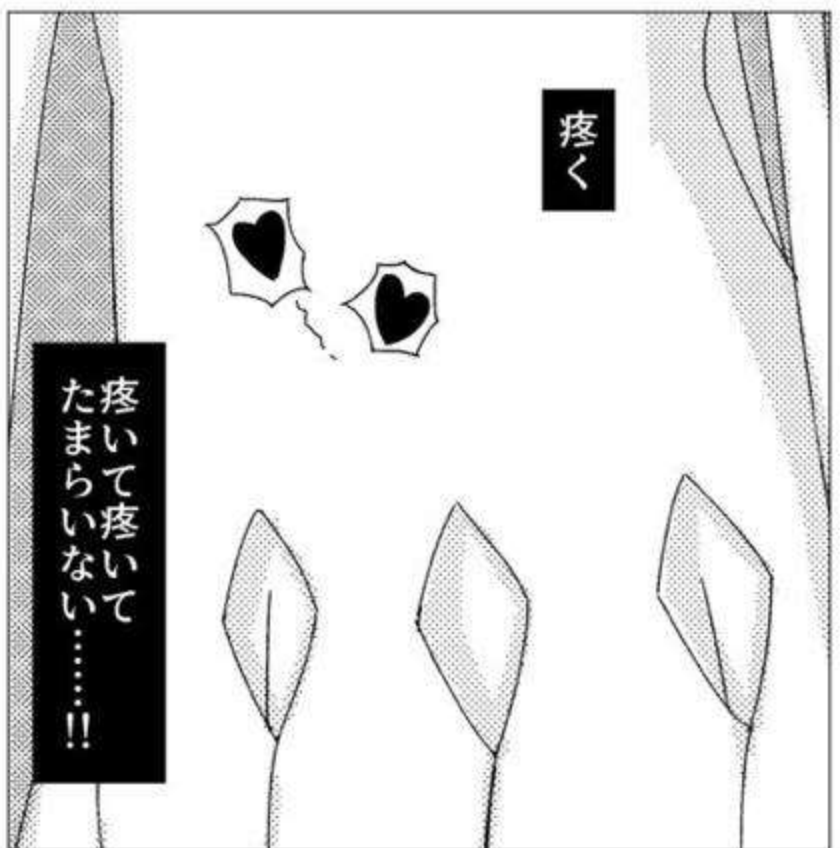
さっ?  
どうしよっか?

今、私は

はあ♡

この強者に屈服したくて、  
媚びたくてたまらない

はあ♡



なにか……  
そう、なにか、  
とても温かくて、  
とても大切なものを忘れて  
いるような、  
そんな気がする

ああ、でも——  
なぜなのだろう?

でも……

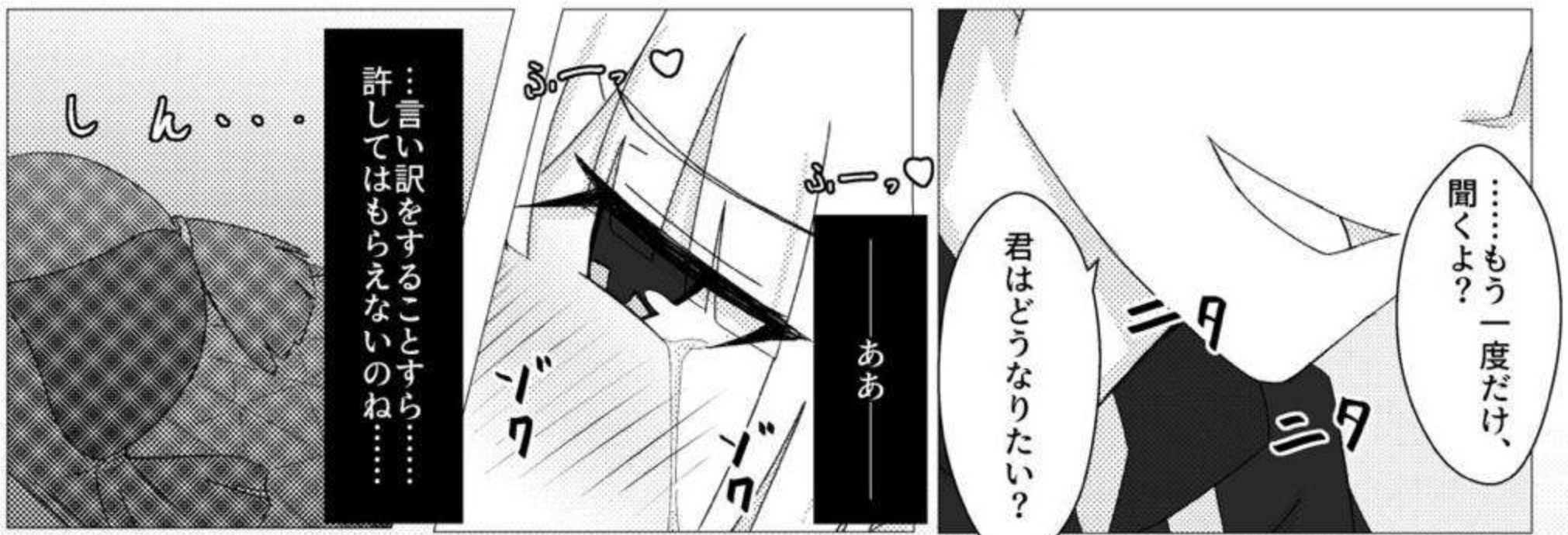


はるか高みから  
投げかけられる視線

本来なら、それはただ屈辱でしか  
ありえないはずなのに……









…なんて空虚な言葉なのだろうか…



彼の言葉は、寒々しくって、白々しい



でも、まだだ

なのに、それが愛おしくてたまらない

もっと、もっと、オレ好みになってもらわないとね

彼の言葉が不思議な程に染み渡っていく

オレに抱いてもらうためならなんだってする

それはひどく甘美で、  
蠱惑的で、きつと私はもう抗えない

そういう最低にさ



けれど…なぜだか、少し、情けなくも感じる

はあ、♡

はあ、♡

動機がどうあれ、結末がどうあれ、いつかの、そう誰かは抗っていたように思う

だと言うのに……

私は、ただただ、自身の本能に、欲に屈してしまう……



溺れるような多幸福感の中

そんなことをほんやりと考えていた



それから

あっ♡

ひっ♡

あん♡



そ！  
畑だっ、いきなり  
種を植えたりしないでしょ？

はあ♡  
はあ♡  
じ、準備…ですか？



フー♡  
フー♡  
フー♡

あん♡

だからじっくりと…ね？  
あ、でも安心して？  
すぐにその靈基からだに誰が  
主人なのか刻んであげるから

もみっ

もみっ

はい♡

ギョッ



マスター？  
焦らさないでください……

私わたし、もう……

あっ♡

びっ

ま、そう焦らないで

まずは、準備をしなくちゃ

ジュ♡

もみっ

もみっ

しゅ♡

しゅ♡

しゅ♡





気持ちいいだけじゃあ  
足りない!!



でも……!!

足りない!!



気持ちいい……!

まるで感覚そのものを  
いじられているような……



からだ  
霊基が変質して  
いつているのがわかる

よりこの方好みに  
なるような

うん!  
なかなかいい感じかな?

そろそろ仕上げちゃおうか

でも  
そうなればなるほどに、  
より乾きは強くなる……





そこからは、ただひたすらに絶頂だった

灼けつくような快感……



しかし、それは、無機質なそれであり、私の求めるものとは、到底言えるものではなかった……

例えるなら、そう

喉の渇きに塩水の如くであり、私と体はより一層、その乾きを強くした





ぽ  
そ、それでは♡



そ！  
これから君は  
オレの女になるんだ



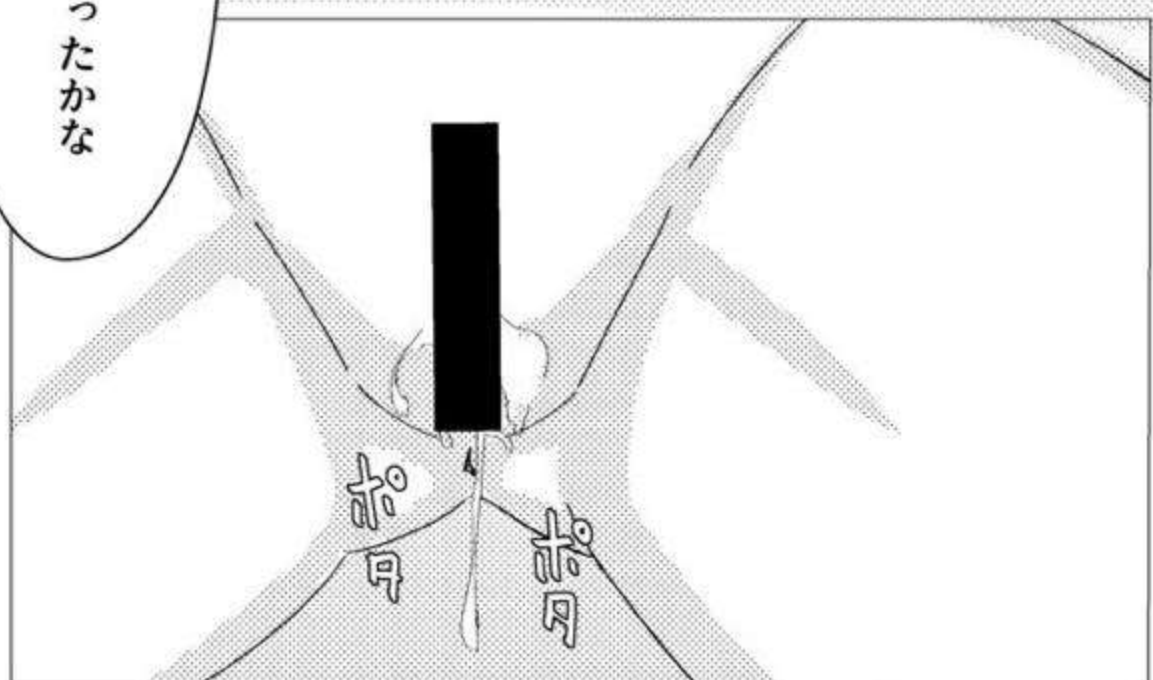
うん！



もう、待ちきれません  
マスター♡

…ああ……!!  
いよいよなのね？

いよいよ、仕上がったかな







どうか、私の全てを

喰らいつくしてください♡

言われるまでもないよ

ニヤ

はっ♡

はっ♡

!?  
うっ♡

ぬちゅ

ゴク

ゴク

お♡  
これ、すごい♡

あ♡

想像してたよりも、  
何千倍も幸せ♡  
ガク

当たってるとこ、  
全部が溶けるっ♡

ぬちゅ

じゅちゅ

ガク

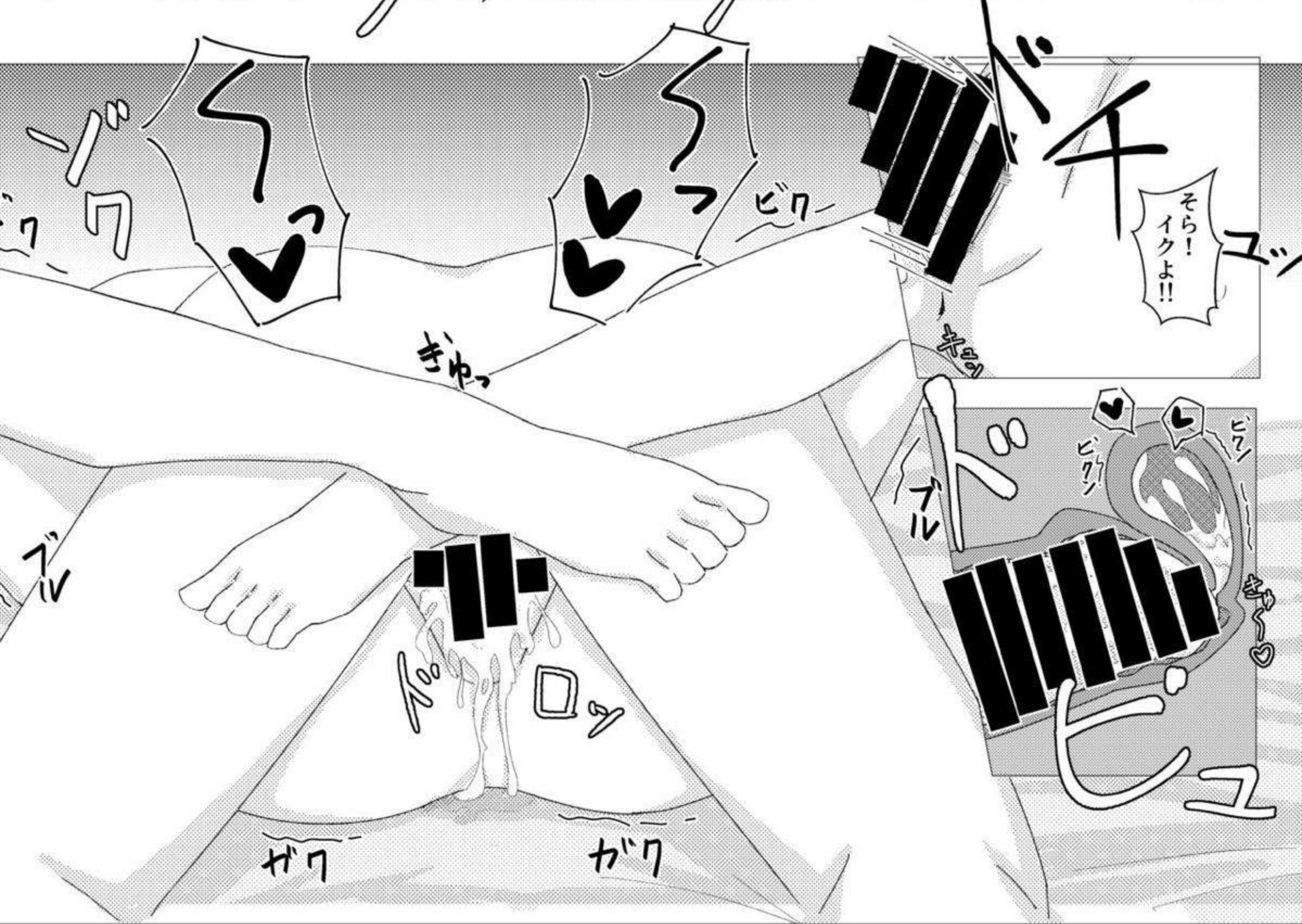
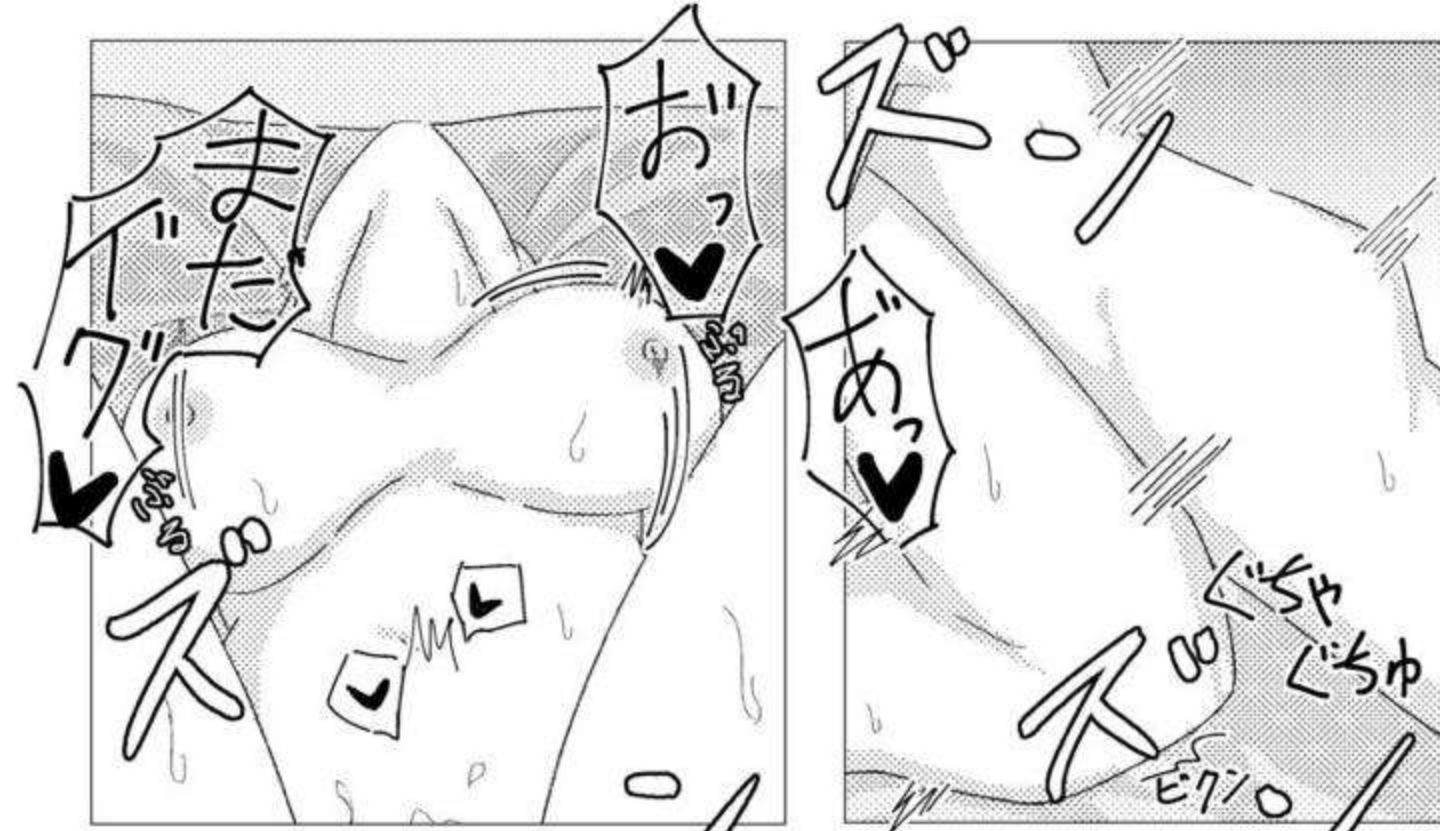
















あなたの

私を



それから

私はマスターのサーヴァントとして、  
命令されればどんなことでもやった

こうすると、  
また違うでしょ？

そして、私の順番が来れば、  
渴く暇なく、肌を重ねる日々

暴力的で、退廃的な、際限のない  
快楽という沼に、私は望んで、沈んでいく……



そして

頭をちらついていた  
いつかのなにかのことも……

私っ、獣みたい♡

これっ、  
最高♡♡

もはや、どうでもいいものに  
成り下がっていた









ん?  
流石に疲れた?

ま、まさか……

だって

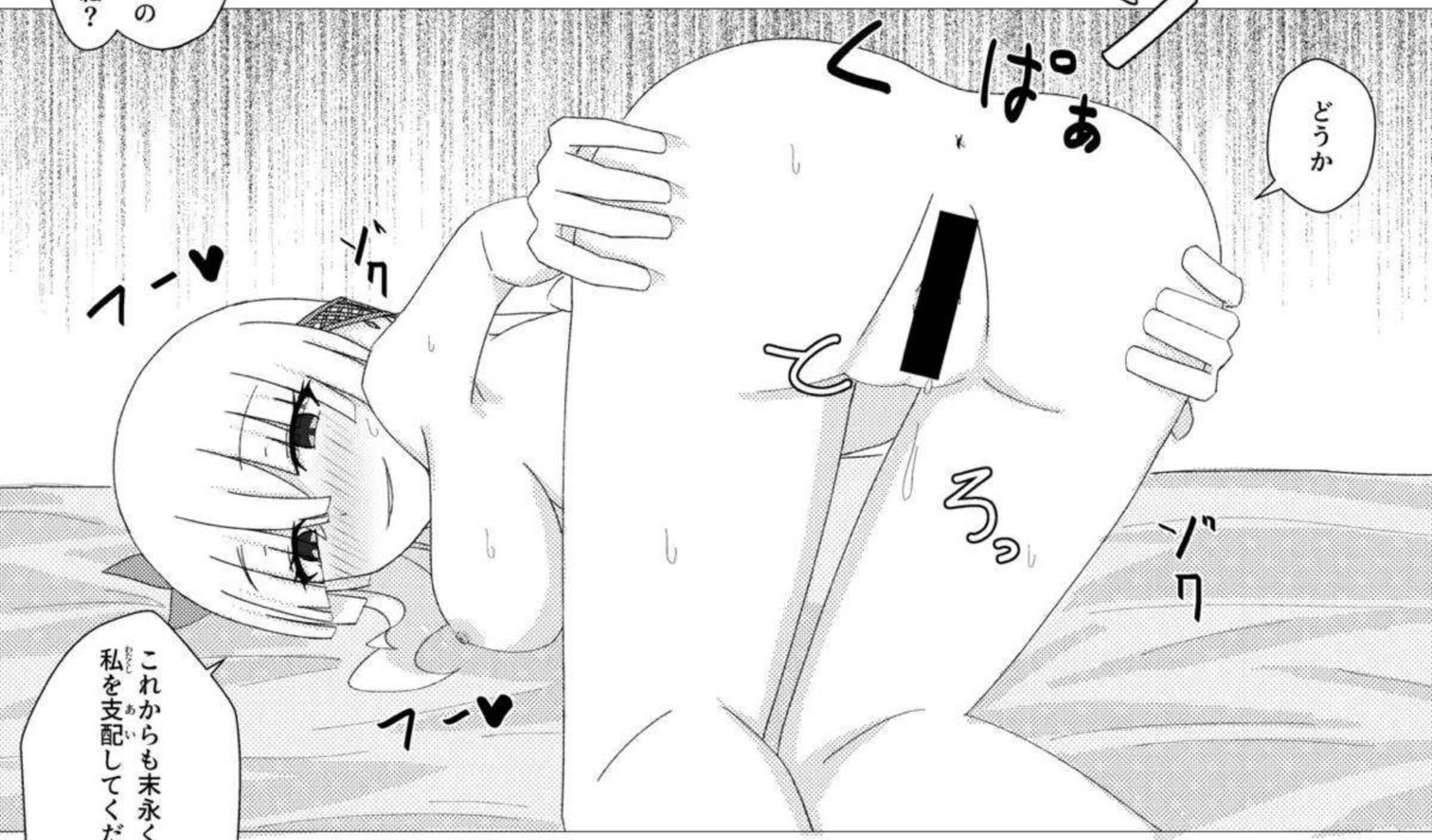
私、いつも、マスターに  
抱いてもらうことだけを  
考えているのよ?

マスターに抱いてもらって  
いないときは……

はあ

はあ

ここが渴いて  
狂いそうになるの  
ですからね?



どうか

はあ

はあ

はあ

これからも未永く  
私を支配してくださいね♡♡



彼女は、きつと、  
何も憶えては  
いないだろう

いや、  
彼女は  
サウア  
「次」は  
「次」は  
も別の  
人のよ  
うな

だから  
この感  
情は、  
僕が…  
劣等に  
溺れそ  
うだっ  
た  
この僕  
の  
自己満  
足だ

そう  
分かっ  
てる…

それでも

少し…浮世離れして  
いて、  
そして、少し強引な

そんな彼女に、  
例え、何の話なのかすら、  
理解してもらえなくとも

こんな僕を、  
『きつと、正しいことを為す』と、  
信じてくれて

『ありがとう』と伝えたいと思う

—その時、彼女は、  
どんな顔を  
するだろうか—

終



「サーヴァント×コネクト 獣国の皇女編」

2018/5/20

elfen

連絡先(elfenlied.kaguya@gmail.com)  
Twitter(@elfen09)